



JHP行動基準

私たちは、地球的視野を持って活動します。

- *開発途上国の人々と同じ目線で学びあいます。
- *より多くの人に新しい経験や自己研鑽の機会を提供します。
- *諸外国と日本を結ぶ架け橋（国際交流）の役割を担います。

私たちは、社会的に弱い立場の人々の自立を支援します。

- *主な支援対象である「子ども」に対して、ハード、ソフトの面から一人ひとりの未来を支えます。
- *国内外の災害救援時に被災者の自立を支えます。

私たちは、「できることから始めよう」を実践します。

- *人を活かし、一人ひとりの個性や能力が発揮できる組織を目指します。

私たちは、活動に関わる全ての人々がお互いに理解し合える関係を築きます。

- *プロジェクトを成功させるために、支援に携わる人、支援を受ける人と良好な関係を築きます。

私たちは、常に現場のニーズに基づき活動します。

- *現場のニーズが活動の原点であり、その状況を直接調査し、見極めた上で事業立案し活動します。
- *現場の人々と直接やり取り、汗を流し、助け合い、学びあいながら活動を進めます。

私たちは、皆さまからのご浄財を責任を持って効果的に活用します。

- *支援者の思いに応え、報告や連絡を丁寧に行い、信頼関係を構築します。

私たちは、活動を進めるにあたり危機管理を徹底します。

- *役職員、ボランティアの安全（危険予知と防止）と衛生管理を徹底し、活動環境を整備し、事故なく活動を継続させます。

私たちは、以上の行動基準について、ヒューマンパワーを結集させて実行すると共に、時代時代に適した内容であるかを定期的に見直し、改定していきます。

制定日：平成25年1月11日

第7回ジャパンSDGsアワード副本部長賞 （外務大臣賞）受賞



当会は第7回ジャパンSDGsアワード（主催：SDGs推進本部、本部長に岸田文雄内閣総理大臣-2023年当時）において、顕著な功績があったと認められる企業・団体等に贈られる「SDGs推進副本部長（外務大臣）賞」を受賞いたしました。
総受益者10万人以上に上る、JHPの包括的な支援活動が「教育の質の向上」「衛生環境の向上」「生活水準の向上」「社会的発展」に繋がるSDGs達成に向けた優れた功績であるとして評価を頂きました。
今後も当会は未来を担うすべての子ども達が安心して学べる教育環境づくりに尽力してまいります。



認定NPO法人

JHP・学校をつくる会

JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

〒108-0014 東京都港区芝5-14-2 LandyTamachi 2F

TEL 03-6435-0812 FAX 03-6435-0813

E-Mail: tokyo-office@jhp.or.jp ホームページ: www.jhp.or.jp

X(旧Twitter): @JHP_tokyo Facebook: JHP・学校をつくる会

本書の印刷は株式会社プロネクス様にご協力頂きました。



認定NPO法人

JHP・学校をつくる会

JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

2025

年度事業報告書

2026

年度事業計画書

2025年度 事業報告書 2026年度 事業計画書

CONTENTS

■ ごあいさつ	3
■ JHP の活動・歩み	4
■ VISION,MISSION	5
■ 学校建設（カンボジア）	6-7
■ 学校建設（カンボジア・ネパール）	8
■ 衛生教育（カンボジア）	9
■ 初等科芸術教育支援事業	10-11
■ 音楽・美術教育支援事業	12
■ CCH アート・プロジェクト	13
■ 成人識字教育事業	14
■ カンボジア体験ボランティア	15
■ モンゴル理科教育支援プロジェクト	16
■ 災害救援 復興支援	17
■ 広報活動	18-19
■ 組織運営	20-21
■ 2025 年度活動計算書	22
■ 2025 年度貸借対照表・監査報告書	23
■ 2026 年度事業計画	24-30
■ 2026 年度活動予算書	31



ごあいさつ

2025 年度は私ども「JHP・学校をつくる会」にとりまして、従前以上に組織成立の目的に向き合い、JHP の持続力、生命力を蓄えていく難しさと強靱な意識の必要性を感じる一年であったと思われま

す。その結果は停滞より前進の軌道に向かったように思いますが、それも JHP の多くの事業を支えていただいた皆さまのご支援とご協力があったことであり、プノンペン の現地スタッフを含めた全構成員を代表し、心より感謝を申し上げます。

皆様から毎日お寄せいただくご寄付を経理報告書で拝見し、JHP は「正しいことに全力を注ぐ組織」と気を引き締めております。それを「使命」とも言うのと、ある説論の会でお聞きしたことがあります。

私の独り言はそこまでとし、本冊子では JHP が 2025 年度に行った各種事業についてこの後のページに詳しく書かれております。是非皆様にはお目を通していただき、ご叱正を含むアドバイス、ご指摘をいただければ幸いですと考えております。

通常であれば、創設者・故 小山内代表が齒に衣着せない言葉で JHP 使命を謳ったのですが、残念ながら、その声を失って早 3 回忌を迎えました。人間すべての平等の一つが死であるとは知るものの、やはり寂しい限りです。だからこそ JHP は 3 年すらもたなかったなどと言われないように、一層前進への模索を怠ることが出来ないと考えております。

その想いが通じたのか、2025 年度の各種事業においてはその後に関わる展開が随所に現れており、その芽生えた新芽が 26 年度、27 年度との時間の流れの中で大きく成長していく可能性を感じております。

その息吹については本冊子の事業計画の中に触れておりますが、例えばネパールに関しましては、長く協働関係にある企業と連携し、同法人の植樹活動と JHP の教育環境の改善との使命を連結した新たな支援活動を予定しております。

また、カンボジアでの「音楽・美術」科目の教科書・指導書の改訂、教育省への提出を間近に控えて、その後の新たな段階への展開を求めること、さらには関東学院大学との提携の下に若き人材育成に JHP も公式に参画することになり、今後の大学とのネットワークの広がりに期待を抱いております。

同じく同国での JHP 成人識字教育に地方政府からの連携要請が招来したことなど、2026 年度は翌年度へのジャンピングボードになると期待しております。

無論、新たな試みや挑戦の始まりには必然的に試行錯誤、はたまた脆さや危険性を伴うことになりましよう。その際にはさらに皆様のご支援を賜らねばなりません。是非是非、宜しくご指導とご協力を改めてお願い申し上げます。

最近の経験では、AI や Chat GPT の紹介に JHP が途上国支援で必ず紹介されていると言われ、それを参照してご協力を申し出てくださる方もいらっしゃるケースがあります。この経験は有難いお話というだけでなく、私どもの使命達成には心強い刺激をいただくことになります。どなたかが必ず見つめてくれていることを胸に抱き、明日も JHP は活き活きと活動することをお誓い申し上げます。

代表理事 青木一能

JHP の活動・歩み

■創設の経緯

創設者・故 小山内美江子は、1990年の8月、イラクによるクウェートへの武力行使によって勃発した湾岸戦争に際し、ヨルダン難民キャンプに向向き、はじめての海外ボランティアを経験しました。湾岸戦争時、「顔の见えない日本人」と非難されたことが行動の原点であり、共に活動した大学生の日々の成長に小山内が感動したことが、後のカンボジアでの活動に繋がっています。

JHPの前身団体JIRAC（日本国際救援行動委員会）でカンボジア担当だった、故 小山内美江子と故 二谷英明（俳優、JHP元副代表）が、パリ和平協定調印後の1991年12月にタイ国境の難民キャンプを視察し、更に92年活動の調査のため、カンボジア入りしたあと、1992年7月から学生らと共にタイからの帰還難民の救援に汗を流しました。その時の活動を通じて、学校建設の必要性を痛感し、1993年9月15日に同JIRACの中から「カンボジアの子どもに学校をつくる会」を創設しました。

1997年4月より会費会員制に移行して、「JHP・学校をつくる会」に改称。2000年10月に東京都より特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受け、11月に登記を完了。2004年1月1日に国税庁より認定NPO法人の認定を受けました。

■JHPのヒストリー年表

1993	9月15日にJIRACの中から「カンボジアの子どもに学校をつくる会」を創設
1997	4月より会費会員制に移行して「JHP・学校をつくる会」に改称。
2001	カンボジア王国と覚書を交わし正式なNGOとして認められる。
2011	東日本大震災発生。仙台市若林区、南三陸町にて支援活動を行う。 平成23年度外務大臣表彰を団体として受賞。 JHP初となるネパールでの学校建設を開始。
2014	東京都より認定NPO法人の認定を受ける。 創設20周年を祝う記念の集いを開催。
2016	JICA草の根技術協力事業「カンボジア王国 初等科芸術教育支援事業」が開始される。
2017	ASACカンボジアに学校を贈る会より識字教育事業を継承。 2018年9月から識字教室の開講。
2018	JHP25周年記念祝賀会の開催。
2020	公益財団法人社会貢献支援財団より、「第54回社会貢献者」の表彰を受ける。
2023	JHP30周年記念祝賀会の開催。 「第3回SDGsジャバンスカラシップ岩佐賞」教育の部を受賞。 第7回ジャバンスカラシップSDGs推進副本部長（外務大臣）賞の表彰を受ける。
2024	創設者小山内美江子が5月2日に94歳で逝去。 「小山内美江子さんを偲ぶ会」を7月24日に開催。 JICA草の根技術協力事業「カンボジア国 初等科芸術教育普及体制構築事業」の開始。
2025	第20回目となるJHPチャリティーコンサート開催。 モンゴル理科教育支援プロジェクトの開始。

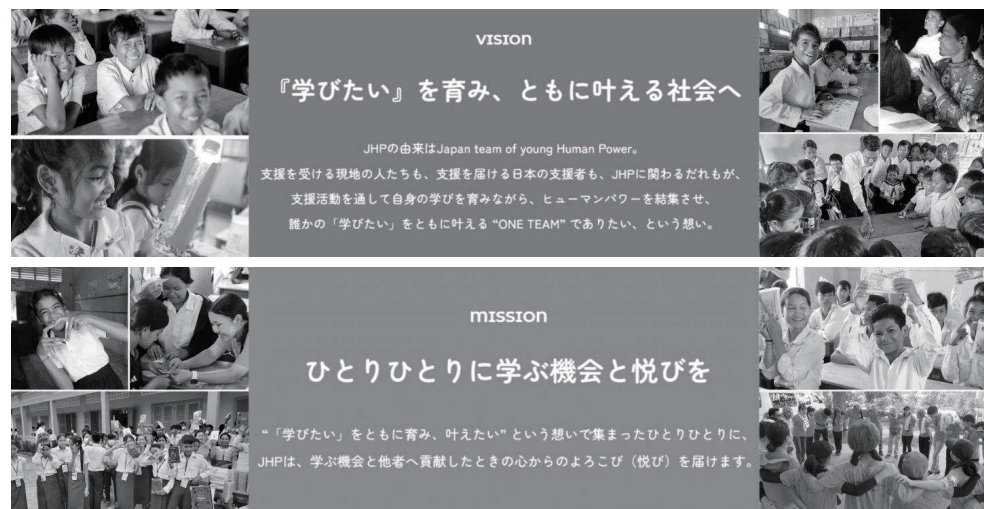
VISION, MISSION

私たち JHP は 2023 年度・2024 年度と、専門コンサルタントによる伴走支援を受けながら、団体の強みや課題と向き合い、組織基盤の強化に取り組んできました。

その取り組みのさなか、2024 年 5 月、JHP の創設者である小山内が逝去しました。創設から 30 年以上にわたり教育支援の現場を切り拓いてきた存在を見送り、JHP は大きな節目を迎えます。

「これから私たちは、どこへ向かうのか。」

これまで積み重ねてきた歴史を振り返りながら、これからの未来を見つめ直すため、カンボジアのローカルスタッフを含めた全員アンケートから始まり、2025 年 7 月から 2026 年 1 月までの全 8 回にわたり事務局メンバーで話し合いを重ね、このたび、新たな JHP のビジョン・ミッションを策定しました。



第2フェーズの JHP へ

創設から 30 年以上。学校建設から始まった JHP の活動は、教育支援のさまざまな形へと広がってきました。そして今、JHP は第 2 のフェーズに入ろうとしています。変わらないのは、教育の力を信じること。そして、ひとりの「学びたい」が次の誰かの未来をつくると信じていることです。これからも JHP は、世界の「学びたい」に寄り添い続けていきます。



学校建設（カンボジア）

■建設支援リスト

建設累計	支援学校名	地域	受益者		主な支援内容								
			生徒数	教員数	棟	室	トイレ	室	机/椅子	井戸 水タンク	手洗場	遊具	
372	ブラサットクナー小学校	ブレアピア州	88	5	1	4							
373	オークラバオ小学校	バッタンバン州	235	9	1	3	1	3					
付帯設備	アンルントリア中学校	ブレイベン州	161	5			1	3					
付帯設備	マニャプロウ小学校	バッタンバン州	367	15	(1)	(4)	1	3					
付帯設備	ボチバラン小学校	ブレイベン州	513	13	(1)	(5)					1	1	
付帯設備	コンターナン小学校	コンボンチャム州	1195	26	(2)	(10)	(2)	(8)	48			(1)	
付帯設備	トップミエン小学校	コンボンズプー州	246	11	(2)	(6)	(1)	(4)		(1)		1	
付帯設備 & 校舎補修 (校舎外壁の再塗装)	アンルントリア小学校	コンボンズプー州	692	15	(3)	(16)	(2)	(7)		(1)		1(1)	
付帯設備 & 校舎補修 (校舎外壁の再塗装)	ブラサトスラケオ小学校	タケオ州	727	24	(4)	(18)	(3)	(12)		(1)	(1)	1(1)	
校舎補修 (ドアと窓の再塗装)	イヤーバアウ小学校	タケオ州	175	9	(1)	(5)	(2)	(7)		(1)	(2)		
2025年度実績			⇒	4,399	132	2	7	3	9	48	-	1	4

* 昨年度までの累計校舎棟数は補修完成を含んでおりました。今回から新設寄贈の累計棟数になります。
* 実績の（ ）内の数字は、過去に寄贈した棟数と室数を示します。

■支援概況

各地の学校や州や郡の教育局から寄せられた要望書に基づき、主に
①教室数の不足度 ②校舎の老朽化や倒壊の危険性
③生徒数の増加程度（村の人口形態）④校舎以外の設備の必要度
をスタッフが直接確認し、優先度の高い学校から建設を行いました。

2025年度はカンボジア2州に小学校2棟7室、校舎補修3棟13室、
トイレ3棟9室、手洗い場1基、遊具4基を建設し、総受益者は生徒
4,399名、教員132名の成果を得ました。これにより、カンボジア国内
での校舎建設数は21州で373棟となりました。

校舎補修については、過去にご寄贈いただいた校舎外壁及び窓、並び
にドアなど、古くなった校舎の再塗装を中心に支援いただき、継続し
た校舎の維持管理に努めております。また年間を通して学校調査を行
い、今後の事業継続のための情報収集と支援者への提案を行いました。



コンターナン小学校 支援者から届いた
机と椅子及び文具に喜び児童



オークラバオ小学校
新校舎の教室の様子



ブラサットクナー小学校
新校舎完成(上) 贈呈式集合写真(下)



トップミエン小学校
新設されたブランコで遊ぶ児童

■カンボジアにおける校舎建設の実績

2024～2025年度の教育省統計によると昨年と同じく公立小学校は7,398校、中学校1,790校、高校は581校（内546校は中学と同じ敷地内、残り35校は高校のみ運営）、学校の総数は9,223校です。
その中でJHPは支援校306校（約3.3%）の支援に携わっています。

プロジェクトの背景

国際機関や NGO 等の援助により、カンボジアの教育環境は改善されつつありますが、都市と遠隔地の経済格差やインフラ（教育環境を含む）の格差は拡大しています。また、長く続いた内戦の影響により、現在第2次ベビーブームのピークを迎え、子どもの数が増えています。統計的にこの傾向はあと数年続く予想されます。このことから都市部、地方含む各学校では慢性的な教室不足が続いており、生徒が過密な環境で学んでいるほか、正規の時間数が学べない等の弊害が出ています。

■カンボジアと日本間の交流

2025年度は、支援者の皆様の招いた贈呈式を2回、現地の子ども達との交流会を計9回、さらに日本とカンボジア両国の小学校の児童を結んだオンライン交流会1回を実施しました。



イヤーバアウ小学校
音楽の授業に参加する支援者



チュレイタソー小学校
日本の小学生とのオンライン交流



トロピアンプロリッツ小学校
綱引きで勝利し喜び児童



ブラサトスラケオ小学校
大縄跳びで交流

■支援者による現地学校でのボランティア活動

2025年度は、支援者の皆様による、3つの学校での校舎の窓と外壁の再塗装活動、及び2つの学校での
ブランコ設置活動を実施していただきました。支援者の皆様のご支援により再塗装された校舎は、新設の
校舎にも負けない輝きを取り戻していました。



イヤーバアウ小学校
校舎の窓を再塗装する支援者



ブラサトスラケオ小学校
校舎外壁を再塗装する支援者

■他団体と連携しての音楽を通じた交流会を実施



耳にしたことのないチェロの音色に耽る児童

＊ICEP は、毎年 12 月の 2 週間、アジア各国の学校や医療・福祉施設を訪問し、生演奏を届けることで、音楽による国際文化交流、創造性や相互理解、そして向上心を育むことを目的としています。

コンターナン小学校では、各演奏者が 5 クラスを訪問し、1 クラスあたり約 20～25 分の演奏を実施、約 210 名の児童が鑑賞しました。子どもたちが、初めて触れる楽器の音色に引き込まれ、音楽の世界に魅了されている様子が印象的でした。

学校建設（ネパール）

■新たな支援活動への挑戦



2011 年に始まったネパールでの学校校舎建設支援活動は 2024 年までに 21 棟、88 教室が完成しました。

本年度中の建設実績はありませんでしたが、建設した学校の状況調査、把握に努めてまいりました。

支援者の皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。

新しい校舎やトイレ、手洗い場の建設支援によって、子どもたちが安全な環境での学びが保障されるだけでなく、

彼らの成長を支える教師や保護者、地域住民も恩恵を受けることが可能になりました。

ネパール事業では、2026 年度より、他法人と連携した植樹活動と一体となる新たな包括的支援計画を実施いたします。植樹地域において、ハード面では学校建設を行うとともに、ソフト面では建設した学校を拠点に、環境保護をテーマとした知育教育の実践を進めてまいります。

依然として大地震の影響から十分に復興できていないネパールの子どものたちの教育環境の改善に向け、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

プロジェクトの背景

JHP の学校建設プロジェクトは、2011 年にネパール東南部に位置するジャバ県で開始されました。ジャバでは、学校はきちんと機能しているものの、校舎数が非常に不足し、子どもたちは教室の水準に達しない狭い部屋に押し込まれ、でこぼこな床、雨が降ると水漏れするタタン屋根、設備の不十分な教室で勉強していました。こうした状況を調査により把握後、JHP はネパールでの学校建設プログラムを開始させることを決定しました。支援の目的は、学校校舎を建設すること、特に僻地の村に学校を建設することでした。この支援により生活に困窮した貧しい農家の子どもたちがこれまでより良好な環境で教育を受けられるようになりました。

衛生教育（カンボジア）

■衛生環境を整え、安心、安全な学校生活を

2025 年度はトイレ 3 棟 9 室、手洗い場 1 基を必要とされている小学校に設置、並びに手洗い用の石鹸を含む衛生用品を 1 校に支援し、各校の衛生環境の改善に取り組みしました。



アンルントリア中学校
(左写真) 洪水多発エリアに設置された高床式トイレ3室 (中写真) 贈呈式の様子

オークラバオ小学校
1 棟 3 室新設トイレ

■衛生教育の実施

学校建設事業担当のスタッフが、新校舎の建設前の最終協議会にて計 2 回、紙芝居などを使用し衛生教育を実施しました。

また、8 月に日本の学生を中心とした「カンボジア体験ボランティア」参加者が、訪問先の小学生を対象に「なぜ公衆衛生が大切なのか」について理解を深めてもらうための劇と手洗い方法の実践と衛生に関するダンスを披露しました。その後、完成されたばかりの手洗い場で一緒に正しい手洗いを実践しました。



(上) プラサットクナー小学校
JHP スタッフによる衛生教育



ボチバラン小学校にて
(左写真) ボランティア活動隊メンバーが衛生教育の劇を披露 (中&右写真) ボランティア活動隊メンバーから習った手洗い方法を実践中

■アンルントリア中学校の生徒に、トイレ完成 1 ヶ月後にインタビューしました！

名前：シヌーン・ニータ
年齢：13 歳（中学 2 年生）

新しいトイレが完成した後、汚染などの心配なく毎日使用しています。安全、衛生、健康的にとっても助かっています。特に女性の健康にとっては非常に大きな助けです。



名前：チョーン・シングリー
年齢：13 歳（中学 2 年生）

今まではトイレが臭く、暗く、汚かったので、使う気になれませんでした。新しいトイレは清潔で綺麗なので使いやすいです。



JICA 草の根技術協力事業（パートナー型） 初等科芸術科教育普及体制構築事業

当会の事業の柱の一つである「初等科芸術教育支援事業」が2023年3月にJICA草の根技術協力事業（パートナー型）として再採択されました。第2フェーズとなる当事業では、人材育成を主軸に芸術教科教育普及のための基盤の構築に取り組んでいます。2024年2月にカンボジア教育省各局（教員養成局、カリキュラム編成局、初等科教育局）の職員及び教員養成大学の先生方、そしてアドバイザーとして、文化芸術省の職員を迎え、合計16名のワーキンググループ（WG）を結成し事業を進めています。

■第2フェーズ 事業概要

<実施期間>

2024年2月～2027年1月

<プロジェクト目標>

初等科芸術教科普及の基礎が構築される

<3年間の成果目標>

成果1. 新たなナショナルトレーナー（芸術教科を指導できる教員育成のための指導官）の育成

成果2. 第一版の児童用教科書、指導書、シラバスの改訂案を教育省に提出

成果3. 教員養成大学（TEC）のシラバスの改訂および指導法に関する教材の開発

成果4. 初等科芸術教科普及計画案を教育省に提出

■2025年度の活動進捗報告

成果1. 新たなナショナルトレーナーの育成

<WGによる美術科研修の実施>

日本人美術科の専門家監督の下、WGによる美術科の研修が以下の通り実施されました。研修対象者はバタンバン教員養成大学、シェムリアップ州教員養成校、カンダール州教員養成校に勤務する先生方合計5名です。

- 第1回目 2025年4月21日（月）～4月25日（金） プノンペン
- 第2回目 2025年9月15日（月）～9月19日（金） シェムリアップ州教員養成校
- 第3回目 2026年1月12日（月）～1月16日（金） カンダール州教員養成校

第3回目の研修では教員養成校附属小学校で改訂中の教科書を使用した模擬授業を実施しました。模擬授業を通じて、板書計画や教室環境整備など美術教育への理解が深まる研修となり、模擬授業後の協議会では、具体的な子どもの姿から指導のあり方や指導方法に関わる振り返りが行われました。



候補生による
模擬授業の様子



美術専門家による
模擬授業の様子



<WGによる音楽科研修の実施>

日本人音楽科の専門家監督の下、WGによる音楽科の研修を実施しました。第1回目の研修は2024年度にプノンペンで実施され、2025年度は以下の通り実施されました。研修対象者はプノンペン教員養成大学、バタンバン教員養成大学、シェムリアップ州教員養成校、カンダール州教員養成校に勤務する先生方合計7名です。

- 第2回目 2025年8月11日（月）～8月15日（金） シェムリアップ州教員養成校
- 第3回目 2026年1月12日（月）～1月16日（金） カンダール州教員養成校

研修では教員養成校附属小学校で改訂中の教科書を使用した模擬授業を実施しました。



模擬授業準備の様子



鑑賞題材の模擬授業の様子



音楽専門家による模擬授業時の子どもの様子

成果2. 第一版の児童用教科書、指導書、シラバスの改訂案を教育省に提出

<小学校4年生から6年生までの教科書、指導書の改訂を実施>

WGが音楽・美術チームに分かれ、教科書、指導書のスペルミスや、その学年の児童にとって分かりやすい表現が使用されているのか、また題材は各学年のレベルに合致しているのか等、1ページずつ全員で確認し、必要な場合、修正を行いました。



<現地の小学校にて改定部の照合作業>

各学年の改訂作業終了後、タケオ州にある小学校にて現地の先生が実際に改定した教科書を使用し、授業を行いました。WGは児童や先生達の様子を観察しながら、改訂部の照合作業を実施しました。



プロジェクトの背景

カンボジアの音楽・美術教育は、教育課程の中で独立した科目でなく、「社会科」の一部として位置づけられていましたが、2016年のカリキュラム改訂に伴い芸術教科が独立教科として採用。2023年からは小学校の教育過程において週1時間の「芸術」の時間が割り当てられましたが、実際に教えることができる人材は不足しています。授業を行っている小学校においても、音楽の指導内容は歌詞の書き写しや伝統楽器の名称を覚えることなどに限られています。美術においても、指導内容のほとんどは臨画（模写）です。子どもたちが音楽や美術を通じた自己表現活動により、協調する力や表現力、豊かな感性と心の情操を育む機会は極めて少ないといわざるを得ません。

音楽・美術教育支援事業（フォローアップ事業）

■地域や学校に根づいた音楽・美術教育を目指して

1996 年より実施している音楽・美術教育支援事業では、対象地域において芸術教育を現地主体で継続して実施していくために必要とされる支援を行ってきました。

今年度は、プノンベン都・カンボット州・スパイリエン州・タケオ州を対象に取り組みました。
楽器不足で音楽の授業実施が難しい学校や教育機関等へも継続的に幅広く支援を行っています。

●美術（プノンベン都、カンボット州、スパイリエン州、タケオ州）

【美術の授業の継続、 自校開催の絵画展などを目的とした画材の寄贈】

プノンベン都、カンボット・スパイリエン・タケオ州の 32 校における美術の授業の継続、ならびに自校開催の絵画展の実施を後方支援するために、画材の寄贈を実施しました。

【ミツバチの一枚画コンクール】

株式会社山田養蜂場様が主催する当コンクール。
第 13 回のコンクールには、239 名がカンボジアから応募し、3 名が海外部門で入選しました。



プノンベン都・カンボット州・スパイリエン州・タケオ州での画材寄贈



●音楽

【地域や学校への楽器寄贈】

楽器寄贈のリクエストを受けた各教育機関への楽器寄贈を継続的にを行っています。



CCH アートプロジェクト

■自己表現活動を通した、青少年の健全な育成を目指して

本事業は、ローラ基金の支援により 2015 年より実施しています。
子どもたちが想像性や感性、創造力、表現力などの資質能力を発揮できる場を提供することを目的とし、様々な自己表現活動を実施しています。

●アートクラブ

毎週金曜日をアートクラブの日として、美術や音楽に関わる様々な表現活動を行っています。
美術では絵画だけではなく、立体作品づくりもしています。また、美術の活動の最後には、友だちの作品の気に入ったところや、自分の作品の頑張ったことなどをお互いに伝え合う時間があり、子どもたちは生き生きと活動に取り組んでいます。

音楽では、クメール音楽と外国曲を含む歌唱や鍵盤ハーモニカの演奏、打楽器やボディパーカッションに取り組んでいます。



感じたことを発表し合う様子

作品づくりの様子（工作）

作品づくりの様子（工作）



作品づくりの様子（絵画）

作品づくりの様子（折り紙）

リズム遊びをしている様子



鍵盤ハーモニカの練習をしている様子

音楽に合わせてリズム遊びをしている様子

音楽に合わせて小楽器を演奏している様子

成人識字教育事業

2025 年 11 月に開講した第 7 期目となる識字クラスは、2026 年 6 月に修了することを予定しています。今期は 100 名の受講生が仕事と両立しながら、粘り強く勉強を続け、修了試験合格を目指しています。

第 7 期 識字クラス概要

- 開講場所：コンボンチャム州 バティエ郡 サンダエックコミュニティ（地域）内にある 2 村
タンチュレイ村（3 クラス） チョームマサオ村（1 クラス）
- 開講期間：8 カ月間
- 開講日及び時間：月曜から土曜まで週 6 日、2 時間（基本午後 6 時から 8 時まで）
- 総生徒数：100 名（各クラス 25 名）：平均年齢 37.6 歳（最低年齢 15 歳、最高年齢 64 歳）
男性 15 名：平均年齢 31.8 歳 女性 85 名：平均年齢 38.6 歳
- 現地カウンターパート：識字教員 4 名、スーパーバイザー 1 名、アシスタントスーパーバイザー 1 名

10月 識字クラス開講

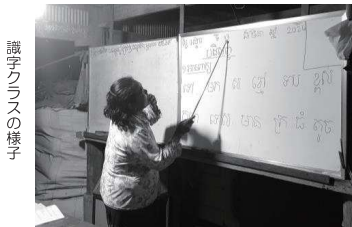


識字クラス開講前の教員養成クラス



開講式を実施

11月～3月 識字クラス実践



識字クラスの様子



クイズに答えて爆笑する生徒

識字クラスの教員へのインタビュー（3月実施）：チェル・スレイニック先生

- Q1. 普段のお仕事は？
▶ 村の次長としてコミュニティ（地域）の事務所で勤務しています。
- Q2. 今期、初めて教員としてこの識字クラスを受け持ったと聞きました。なぜ、教員として参加しようと思ったのですか？
▶ 識字教育が非識字者にとって非常に大切だと思ったからです。
- Q3. 主にクメール語と算数を教えていますが充実感がありますか？
▶ はい。私は教えることが好きなので、とてもやりがいを感じています。
- Q4. 折り返しの 4 カ月が経ちました。クラスで一番大変なことは何ですか？
▶ 夕方のクラスなので、工場勤務による残業や農家の人の出稼ぎでクラスに来られない生徒がいることです。
- Q5. クラスに来られない生徒に対して工夫されていることはありますか？
▶ 工場勤務の生徒は難しいですが、日中時間がある生徒には補習を開講しています。



ボランティア派遣

■8月カンボジア体験ボランティア 8月17日～8月25日

活動内容：ブランコ建設、衛生ワークショップ、CCHでのアート活動、他団体訪問等

活動場所：プノンペン都、プレイベン州

参加者：計 19 名（高校生 6 名/大学生・大学院生 11 名/社会人 2 名）



<ブランコ建設①>
設置用の穴掘り作業



<ブランコ建設②>
ペンキ塗り



<ブランコ建設③>
無事に完成しました！



<衛生教育ワークショップ>
手洗いをテーマとした寸劇



<小学校訪問・交流会>
浴衣着付け体験も行いました



<CCH アート活動>
ペットボトルカー作り



<クメール文化体験>
クメール舞踊を体験



<10/11 活動報告会>
成長が見られた発表でした

プロジェクトの背景

JHP 創設以前の 1991 年に、創設者・故 小山内が湾岸戦争後のイランのクルド難民救援に参加。ここで初めて学生と活動を共にし、成長する姿を見たことがきっかけとなり、地球的視野を持つ若者を育成する事業を開始。これまでに海外は、カンボジアを含め複数の国々へ派遣。国内は、阪神淡路大震災や熊本地震など救援活動にボランティアを派遣しています。

モンゴル理科教育支援プロジェクト

モンゴルでは急速な都市化により人口の約48%が首都ウランバートルに集中し、教室不足から二部制・三部制授業が常態化しています。その結果、教育現場では限られた時間での暗記中心の授業が主流となっています。とりわけ理科の授業では、実験キットや教材が十分に整っておらず、子どもたちは「読むだけ・聞くだけ」の学びにとどまっています。自ら手を動かして試し、「なぜだろう」と問いを立てる実験機会が十分でないことは、子どもたちの探究心の育成にも影響を与えています。

このプロジェクトは、公益財団法人森村豊明会様、立正佼成会一食平和基金様のご助成を受け、単なる「実験キット寄贈」ではなく、教師の指導力向上とモンゴルの国の未来を担う子どもたちの科学的思考力育成を目指し、2025年10月～2026年9月（予定）で実施しています。

■ 2025年度の主な活動成果

① 現状把握・アンケート調査（2025年11月）

授業観察と教員ヒアリングにより、設備・経験不足による体験型授業の実施が難しい現状を確認しました。また、児童生徒1,481名にアンケート配布し、1,006名（回収率67.9%）から得た回答によると、半数以上が「実験の機会が不足している」と感じており、子どもたちが主体的な学びを強く望んでいることが明らかになりました。

② 探究型授業案の開発（2025年12月～2026年2月）

日本人専門家と協力し、小4「磁石の不思議」（7時間）、小5「てこ、そのメカニズム」（6時間）計13時間分の指導案を作成しました。「問題→仮説→実験→考察」のプロセスで、児童が自ら問い・考え・確かめる授業を設計しました。

③ 5日間の教員研修実施（2026年3月9日～13日）

理論研修・実験体験・指導案作成・模擬授業・振り返りを段階的に実施しました。てこ45個・磁石45個・温度計15個を寄贈し、「器具の使い方」ではなく「授業への活かし方」を中心に研修を行いました。



④ 児童への授業実践（2026年3月）

研修を受けた教員が、新しい指導案と実験教材を用いて実際に授業を実践しました。小4「磁石の不思議」の授業では、児童が「どんなものが磁石につくか」を自分たちで予想し実験。小5「てこ」の授業では「重いものを軽く持ち上げるコツ」をグループで話し合いながら発見しました。授業後、「初めて理科が楽しいと思った」「自分で考えて当たると嬉しい」という児童の声や、「子どもたちの目の輝きが変わった」「質問が増えた」といった教員の報告が寄せられ、探究型授業の手応えを実感しました。今後とも温かいご支援をよろしくお願いいたします。

災害救援 復興支援

■八丈島台風22・23号災害支援募金

2025年10月に相次いで発生した台風22号・23号は、八丈島を中心に記録的な暴風をもたらし、建物の損壊や断水、停電など、甚大な被害を残しました。



写真左・中央）校舎に流れ込んだ土砂と流木（末吉地区在住：浅沼碧海様ご提供）写真右：根こそぎ倒れた大木が暴風雨の威力を物語っていました

JHPは東日本大震災の際、当時のスタッフの故郷でもあった南三陸町で被災の実現を目の当たりにし、ヒューマンパワーを結集して長期的な支援活動を行ってきました。

今回、理事が現地に暮らす八丈島での台風被害を受け、創設者・故 小山内美江子が掲げた「できることから始めよう」の精神のもと、地域の日も早い復旧・復興を願い、2025年10月から2026年1月まで現地で被害に遭われた方々を支える募金活動を実施いたしました。

4か月間の募金呼びかけにより、約27万3千円のご寄付をお寄せいただきました。ご支援を賜りました皆さまに、心より感謝申し上げます。

お寄せいただいたご寄付は、現地ボランティアセンターで支援活動を行う当会理事によるニーズ報告をもとに、現地の支援活動で必要とされる備品購入*や、軽トラック手配代、運営上必要な文具類など、今まさに現地で求められている支援に大切に活用させていただきました。

*購入した災害支援備品：手箕（てみ）、竹ぼうき、ほうき各種、熊手各種、ノコギリ、カマ、土嚢袋、ゴミ袋、トラロープ等



JHP 支援者の皆さまからのご寄付で購入した備品と、JHP ロゴの入った軽トラック

支援した片付け用具等の災害支援備品は、現地のボランティアの方々が片付け作業などの活動を行う際に使われています。

今後も JHP は被災地に寄り添える活動を「できることから」を合言葉に、地道に続けていきたいと思っています。皆さまの温かい応援のほど、よろしくお願いいたします。

広報活動



7/26 高木凜々子チャリティーコンサート開催 浜離宮朝日ホール

記念すべき第20回を迎えたJHPチャリティーコンサートは「高木凜々子チャリティーコンサート」として2025/7/26（土）に開催しました。

3回目のご出演となるヴァイオリニスト・高木凜々子さん、ピアニスト・和田華音さんをお迎えした今回は、クラシック音楽からジブリの名曲まで、幅広いプログラムが披露され、夏休み中のお子さんと一緒に参加されたご家族の姿も多く見られました。

ご来場くださった約500名の皆さまとともに、音楽の楽しさを分かち合うひとときとなりました。

ご来場の皆さまからは、「お二人の息の合った演奏にとっても感動した」「初めて参加したが、演奏も素晴らしい、チャリティーにも参加できて良いイベントだった」といったご感想が多数寄せられました。会場では、カンボジア・ネパールの雑貨販売や活動紹介パネルの展示も行い、たくさんの方に足を止めていただきました。

また、ご賛同くださった皆様から多くのご寄付をいただき、このコンサートを通じたチャリティー総額は100万円を越えました。チャリティーにご賛同くださった皆様へ感謝申し上げます。



ご報告	入場料・募金	2,442,117 円
	支出合計	1,353,947 円
	チャリティー額	1,088,170 円

次回は2026年9月5日（土）に、よみうり大手町ホールにて開催を予定しています

諸活動を広く知っていただくための取り組み

活動名	主な内容・実績
ホームページ運営	○ホームページのフルリニューアルを実施。寄付決済にGoogle Pay, Apple Pay, Amazon Payを新たに導入し、寄付をしていただきやすい環境を整えました。
メールマガジン	○年12回発行。閲覧者1,184人（'26/3月下旬 現在）
SNSの活用	○メールマガジン未登録の方への情報提供や、会の日常的な話題の紹介、イベント当日の話題提供としてFacebookとX（旧Twitter）を活用した。 ▶Facebook フォロワー：1083人（'26/4 現在） ▶X（旧Twitter） フォロワー457人（'26/4 現在）
JHPニュース発行	昨年度は業務体制およびスケジュールの都合により、やむを得ず休刊とさせていただきました。
講演・講義・説明会等	○役職員が年12回実施した。
来訪者受け入れ	○ブノンベン事務所が157名を対応した。
カレンダー販売	○604部（壁掛け型:281部・卓上型:323部）を販売。

ホームページをリニューアルしました

JHP 公式ホームページを2025年度に全面リニューアルしました。今回のリニューアルでは、これまでの活動の歩みや新たに策定したビジョン・ミッションを分かりやすく整理し、当会の取り組みや想いがより伝わる構成へと刷新しました。

また、新たな寄付決済サービスの導入を行い、「応援したい」の想いに応える環境を整備しています。活動レポートやコラムの発信も充実させていく予定ですので、ぜひご期待ください。



JHP 活動紹介・イベント出展

2025年度は、年間4回のイベントへ出展参加し、1人でも多くの方にカンボジア・ネパールの教育状況について知ってもらい、支援の輪を広げることに努めました。

また、JHPの活動内容やカンボジアやネパールの教育事情を紹介し、国際支援を共に考える機会として、活動紹介オリエンテーションを実施しました。

今年度は主に、小学校を訪問しての出張授業や、中学校・高等学校の社会科学習や修学旅行の一環として訪問して下さった生徒さん、ボランティアに参加して下さった方々へ向けて行い、合計9回の開催で約200名の方々と交流しました。

また、日本の小学生が書いた手紙や絵手紙を現地の学校の子どもたちへ届ける国際交流活動も行いました。

学生さんからは下記の感想の声が寄せられました。

『お小遣いを少しずつ貯めて、自分ができる募金から始めてみようと思いました。』（八名川小学校6年生）

『日本の私たちの生活が当たり前ではないこと、そして一人ひとりの力が大きな力になることを学びました。』（新宿区立四谷中学校1年生）

（新宿区立四谷中学校1年生）

『実際に活動している方のお話を聞くことができ、とても面白かったです。これをきっかけに自分もこのような活動に関わってみたいと思いました。』（東京女学館中学校3年生）



カンボジアの子どもたちからのビデオメッセージを見たのち、絵や文章でお手紙を書きました

国を越えて届いたお手紙に喜ぶカンボジアの子ども達

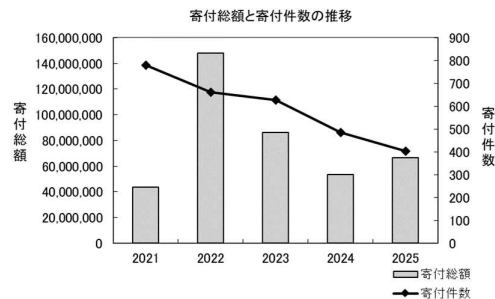
組織運営

会員数 351人 (2026年3月現在)

	正会員	賛助会員
一般	194	102
特別	7	9
学生	16	23

前年比30名減 新規会員24名

寄付金 403 件 66,788,812 円



皆様からの各種ご寄付・寄贈

●寄付サイト

4つのサイトより216,242円のご寄付を受けました。

●募金型自販機

88,269円

●クレジットカード

利用数:205件(1,353,310円)

●スカイウィッシュ チャリティプログラム

デルタ航空のマイレージプログラムより、JHPへマイレージをご寄付いただけます。

個人の方はもちろん、修学旅行で獲得したマイルを寄贈いただく等、学校単位でのご寄付の輪も広がっています。寄贈頂いた貴重なマイルは、JHP活動地へのスタッフ渡航や現地の教育関係者を招聘する際に活用させていただいています。

今年度実績	
受領マイル	1,412,038マイル
利用マイル	1,821,000マイル
年度末残数	28,726,714マイル



寄贈いただいた淑徳と野野高校の皆様へ

■「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」海外継続助成事業

JHP はパナソニックホールディングス株式会社様が実施する『Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs*』海外継続助成として、2023 年度、2024 年度に引き続き、この度3度目の採択を受けました。



助成通知贈呈式にて

*このファンドは、世界的な社会課題である「貧困の解消」に向けて活動に取り組む NPO/NGO が、持続発展的に社会変革に取り組めるよう、組織課題を明らかにする組織診断や具体的な組織課題の解決、組織運営を改善するための組織基盤強化の取り組みに助成しています。

2025 年は応募総数 64 団体のうち「海外助成」7 団体、「国内助成」9 団体、合計 16 団体・助成総額 2,650 万円が助成対象事業として選ばれました。

当会は「財務強化」と「多世代型組織運営」の実現による強い経営体質への変革を目的に申請し、外部専門委員会の選考やヒアリングを経て、海外継続助成として採択されました。1 年間の活動に 1,930,000 円が助成されます。

本助成を通じて、海外の学びたい子ども達への持続的な教育支援活動を実現していくべく、引き続き、組織基盤強化に励んでいきたいと思ひます。

各種会議の報告

2025 年度は以下の各種会議を実施し、運営を進めました。

会議内容	2025年度の主な内容・実績
会員総会	2025年6月29日（土）開催。 出席者78名（6/29時点の委任状含む）。 2024年度事業及び決算報告、 2025年度計画及び予算報告を行った。
理事会	第165～168回まで4回実施。
組織基盤強化会議	組織基盤強化に向けた各種取組みについて 会議を3回実施。
定例ミーティング	各専門部会（海外事業部会）2回、ワーキング グループ会議2回、ビジョン・ミッション策定 ミーティングを8回実施した。

助成金・実施実績

2025 年度は、下記の助成金を申請し、採択されました。

名称	対象事業
（公財）アドラ国際援助基金	成人識字教育事業
連合「愛のキャンパ	成人識字教育事業
（公財）庭野平和財団	成人識字教育事業
（公財）JKA（競輪補助事業）	ボランティア派遣
立正佼成会「一食平和基金」	モンゴル理科教育支援プロジェクト
（公財）森村豊明会	モンゴル理科教育支援プロジェクト
（一社）MDRT日本会	広報事業
クオリティ・オブ・ライフグラント	広報事業
（公財）愛恵福祉支援財団	広報事業
Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs	組織運営
歳末助け合い運動 による地域福祉助成	組織運営

■～JHPの運営を支える～ 未使用切手・はがきを寄贈いただきました

2025年度、個人の支援者様、全コマツ労働組合連合会様より、下記の未使用切手・はがき、各種カード等を寄贈いただきました。

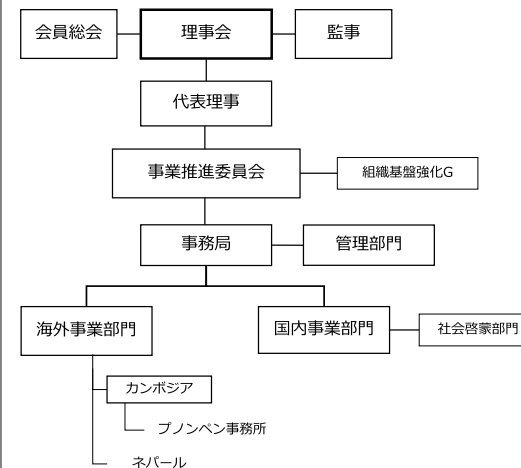
寄贈品は各事業運営に役立てさせていただいています。温かいご支援に感謝申し上げます。

【2025年度 寄贈品総数】

未使用・書き損じはがき：2,060枚 / 未使用切手：29,365円分 / 各種カード16枚分

運営体制（2026.4現在）

◎JHP 組織図



◎役員

代表理事	青木一能
理事	山岡修一、脇田知子、伊藤多栄子 中込祥高、矢加部咲、野村政道 和田勝則、清水真理子
監事	河合将生、千葉保彦*

* 2026年5月以降

◎東京事務所

区分	2024年4月	2025年4月	2026年4月
役員	11名	13名	11名*
職員	3名	3名	2名
職員（契約）	0名	0名	1名
パートタイマー	2名	1名	1名
ボランティア（定期）	1名	2名	2名

役員11名のうち、業務執行にあたる理事4名、監査業務にあたる監事2名（内1名は5月就任）

◎プノンペン事務所

区分	2024年4月	2025年4月	2026年4月
職員（日本人）	2名	3名	2名
職員（ローカル）	5名	5名	4名
専門家（ローカル）	1名	1名	1名